

## 富士山北麓の湖底堆積物から湖形成史を探る

### Investigation of paleo-lake history based on borehole cores at the northern foot of Mt. Fuji, central Japan

# 輿水 達司[1]; 内山 高[2]; 吉澤 一家[3]

# Satoshi Koshimizu[1]; Takashi Uchiyama[2]; Kazuya Yoshizawa[3]

[1] 山梨県環科研・地球科学; [2] 山梨県環科研; [3] 山梨衛公研・環境科学

[1] Yamanashi Inst. Environ. Sci.; [2] YIES; [3] Environmental Sci., Yamanashi Inst. for Public Health

富士山の活動史については、Tsuya(1968)、宮地(1988)、上杉ほか(1992)などの詳細な研究があるものの、火山活動と山麓の湖との関連や、その形成時期等については未解決な問題が多い。そこで、山梨県環境科学研究所では最近数年間で、山中湖、河口湖、本栖湖の湖底において、また山中湖畔、本栖湖畔において、さらに忍野地域の陸上部においてボーリングコアを採取し、上記問題の解明を目指し各種の解析を進めてきた。なお、山体や麓に分布する富士火山の記録は、多くが新富士時代のものであり、古富士期の噴出物・堆積物につき地表面で観察できるのは、東麓や南麓の一部に限られている。そのため、富士山の噴火史、とりわけ古富士時代を含めた噴火史の詳細を理解するためには、野外調査のみならずトレンチやボーリング調査が有効な手段となる。

調査の結果、山中湖底、河口湖底および本栖湖畔の試料から古富士に遡る時代の富士山の火山活動が認められた。忍野地域のコア試料の解析状況も含め、本報告では富士山北麓の湖の変遷史を中心に紹介する。具体的な成果の一つに、忍野地域にかつて発達した古忍野湖は山中湖の前身の古山中湖とは別の形成史を示し、これらの湖がかつて所謂宇津湖とされる大きな湖を形成していたとする考えは否定された。